

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年10月30日

【2017年10月21日～2017年10月27日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドル、対円で下落しました。また、2年国債金利は上昇しました。

ブラジル中央銀行は25日（現地、以下同じ）に政策金利を0.75%ポイント引き下げ、7.50%とすることを決定しました。利下げ幅は前回の1.00%ポイントよりも小幅となりましたが、前回のCopom（金融政策委員会）で利下げ幅縮小が示唆されていたため、市場予想通りの結果でした。

同じく25日にはブラジル下院にて、テメル大統領の訴追に関する採決が行われ、起訴を受け入れる票が規定数に達しなかったため、大統領の起訴は回避されました。

しかし、こうした国内要因よりも先週のブラジル金融市場はむしろ米ドルおよび米金利の動向をより強く反映する形となりました。米下院でも予算決議案が可決され、税制改革進展への期待感が一段と高まった結果、米ドルが買われ、ブラジル・レアルは下落しました。また、米ドルへの資金回帰の思惑から、ブラジルの金利は上昇しました。

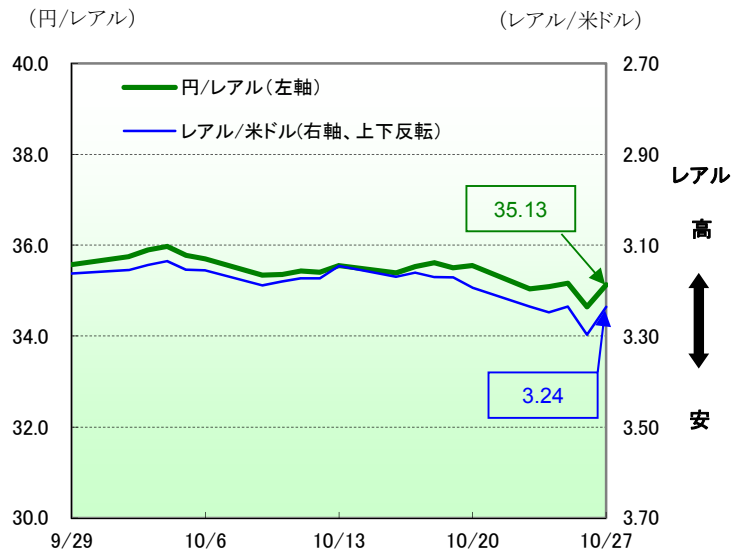
【2】今週の見通し

テメル大統領の起訴が回避されたことで、今週は社会保障改革に関する審議が進展することが期待されます。先週の採決では大統領への支持票が減少していることが明らかになっており、政治的な求心力の低下から、社会保障改革には一定の妥協を強いられるものと想定されます。しかし、いかなる形であっても同改革が進展することは、ブラジル金融市場の大きな下支えとなる見込みです。

また今週は米国において、FOMC（米国連邦公開市場委員会）の開催に加えて、トランプ米大統領による次期FRB（米国連邦準備制度理事会）議長の指名や、米下院委員会による税制改革法案の公表などの重要な政治日程が予定されています。先週同様にブラジル金融市場は米国市場の影響を強く受けるものと想定しています。

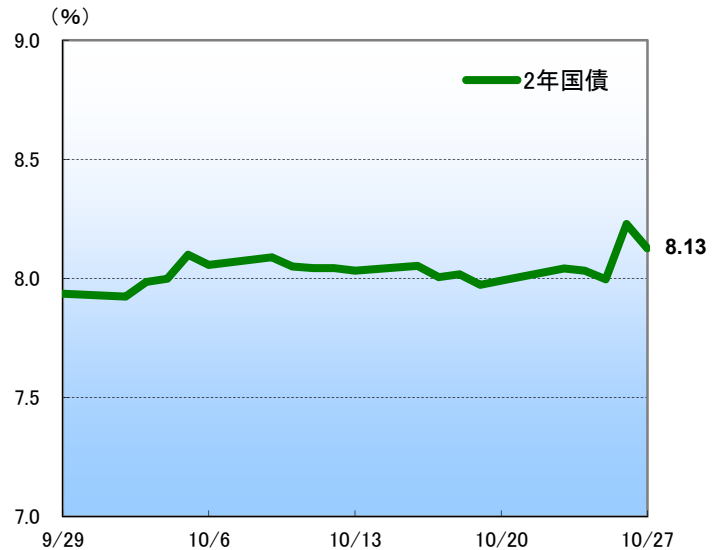
ブラジル国内の経済指標では、基礎的財政収支や鉱工業生産などの発表が予定されています。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年9月29日～2017年10月27日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】(2017年9月29日～2017年10月27日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>